

目の健康

急激な視力低下に注意

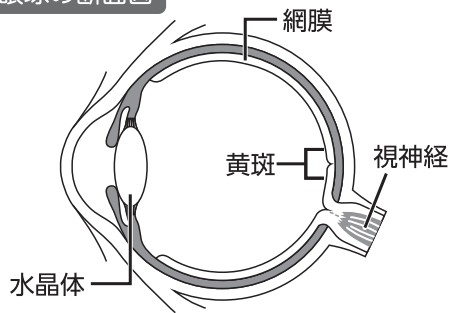
眼球の内側には網膜という神経の膜が張り付いています。この網膜で光を感じ取り、最終的に脳に伝わってものを見ることができませんが、網膜に流れている血管が詰まってしまふと視力低下を起します。

中心部分に浮腫（黄斑浮腫）が生じ、視力低下します。目の中に薬を注射で入れたら、血流が低下したところをレーザーで焼いて症状を落ち着かせたりする治療が必要になります。

高血圧や加齢によって網膜の細い血管も固くなり、動脈硬化を起します。網膜は動脈と静脈が外膜を共有しているため、固くなった動脈が「静脈」を圧迫することがあります。その結果、血流が悪くなり、網膜に出血を起こします。網膜静脈閉塞症です。ごく一部の出血であれば自覚症状がないこともありますが、広い範囲が出血すると黄斑と呼ばれる網膜の

心房細動などの不整脈や頸動脈プラークにより、網膜の「動脈」が詰まると急激に視力が低下します。網膜動脈閉塞症です。脳梗塞と同じ状態となり、発症から数十分で視力障害が永久的に残ってしまいます。動脈閉塞症によって一度低下した視力は残念ながら回復は難しいことが多いため、急激に目の前が真っ暗になったりしたら早めの眼科受診をおすすめします。

眼球の断面図



大上 智弘 先生 プロフィール

平成14年筑波大学卒業、同附属病院眼科、虎の門病院眼科・茨城西南医療センター病院眼科科長、宮久保眼科副院長を経て令和3年4月院長就任 ■専門分野 / 白内障・硝子体・眼瞼手術、日本眼科学会認定専門医、網膜硝子体学会、日本眼科手術学会員他

